国際農業工学
課題レポート

・ハチ公

ハチ公は1923年に秋田県大館で生まれ生後50日で農業土木学の創始者である上野英三郎博士のもとへやってきた。愛犬家であった上野英三郎博士にとても可愛がられており、東京大学農学部(当時、駒場にあった)への通勤や渋谷駅への送り迎えをしていた。東大のハチ公と上野英三郎博士像は、博士が長期出張から渋谷に帰ってきたとき改札で待っていたハチ公に驚き、互いにじゃれあい喜んだというエピソードをもとに犬の純真さとそれを受けとめる人の素直な心を表現しており、東大内では珍しい学問の業績をたたえるものでない像である。この像を造ることを発案した人は人文社会系の一ノ瀬正樹教授で、ハチ公のことを知っている人は多いが上野英三郎博士のことを知っている人は少なく、東大内でも知名度が低いことを嘆きこの像を設置することを決めた。ハチ公の像は有名な渋谷の他にも秋田県の大館市の駅前や秋田犬会館の前などにある。ここまでハチ公が有名になったのは1925 年に上野英三郎博士が大学で急逝し、そのことを知らないハチ公がおよそ 10 年間も朝と夕に上野英三郎博士の帰りを迎えにいっていたからである。上野英三郎博士は、長期出張後には必ず渋谷から帰ってきていたため、雨の日も風の日も渋谷にハチ公は渋谷駅に通っていた。初めの頃は駅の近くで水をかけられたり、駅員に暴力を振るわれ追い払われたり、ハチ公の大人しい性格からか首輪を盗まれ野犬に間違われたり、顔に落書きされたりと様々ないじめにあっていた。しかし、ハチ公のことが朝日新聞に取り上げられてからそのようなことはなくなり、むしろ歓迎されるように変わっていった。その一つの例が、当時の渋谷駅の前にあった焼き鳥の屋台の店員から焼き鳥を貰っていたことで、ハチ公を病理解剖した結果お腹から焼き鳥の串がたくさん出てきたことも有名なエピソードの一つであり、ハチ公が焼き鳥を貰いに渋谷まで通っているという噂が流れるくらいであった。実際は、朝は焼き鳥を貰わなかったのでその噂はあくまでも噂である。

・上野英三郎博士

三重県出身で農業土木学の創始者である。『土地改良論』『耕地整理講義』を著しており、明治の農業の近代化において耕地を改良するために所有権が複雑な耕地を整理する必要があり、その際に技術者養成のため、各地で講演や実地指導をするなど中心的役割を果たした。